

# 流行語から見る中国の若者の婚姻観

## — 「…婚族」 について —

田 梅

### 要旨

流行語は社会の意識を反映し、価値観の変化を伝え、世相を生き生きと映した言葉であると思う。広辞苑には「流行語はある期間、興味を持たれて多くの人に盛んに使用される語」と記されている。近年、中国では人生の大きなイベントである結婚、結婚式などについての流行語が多種多彩である。その中で、「…婚族」という流行語も生まれた。

2010年日中韓三大学交流<sup>注1)</sup>のディベートテーマは「私の結婚観」である。三カ国・15名の在学生在が、結婚に対する自分の考えと将来の理想像について討論した。本稿は、日中韓各大学に在学中の15名の学生の結婚観を参考しながら、現在、中国で結婚に関する流行語となっている「…婚族」を分析して、中国での結婚の現実について述べた。

### キーワード

流行語、不婚族、隠婚族、卒婚族、裸婚族

### 1 はじめに

生活、時代が変わった。価値観も変わった。その変化に伴って、結婚のあり方も大きく変わりつつある。昔ながらの価値観と風俗慣習とは違う概念が登場し、変化してきた。結婚は幸せいっぱいであり、「結婚は愛情の昇華である」と描かれることが多いが、一方で「結婚は人生の墓場である」、「婚姻は愛情の墓場である」などと言われるのもご存じの通りである。

流行語の「…婚族」は結婚、結婚式などについて違い考え、価値観を持っている人を「族」に分類する。「族」とはもともと『同じ血統に属する人々、一門』という意味であるが、ここでは『婚姻に対して、同じ考え、価値観を持っている人たち、人群れ』という

意味が当てはまる。

### 2 婚姻に対する主張

「男大当婚、女大当嫁(男性も女性も結婚適齢期になれば結婚すべき)」。婚姻は、人生を旋律に例えるとその流れの主題である。中国の法律で定められた結婚年齢は男性22歳、女性20歳である。実際には25、26歳ぐらいを結婚適齢期と考えて結婚する人が多い。結婚適齢期を過ぎてもなかなか結婚しない、あるいは結婚相手がいない30代の若者が「大齡青年」「剩男、剩女(余剰の売れ残った男女)」などと有難くない新語で呼ばれる人たちだ。あるデータによると、現在、中国に実に1億

8000万人もの適齢期の男女がいる。北京市では「剩女」だけでなく50万人を超えているという。その数はまだ増え続ける一方である。この若者たちの婚姻態様によって、以下の「…婚族」という流行語がある。

## 2.1 不婚族

結婚適齢期を過ぎた、「結婚する気がない」「結婚しない」と言う固い信念を持っている生涯結婚しない若者たちを「不婚族」と称する。今この「族」に入る人、特にホワイトカラーの女性が急増している。

「結婚については人生においてしなければならないものと感じているので、結婚はしたい。（日本女）注2」に対して、「私は結婚するかしないかで言ったら『しない』方の意見である。（日本男）」

結婚したくない、しないという理由を聞いたところ、男であろうと女であろうと、

①恋愛はしたいが、結婚はしたくない。2010年広州市婦人聯合委員は3ヶ月の期間をかけて、10大学の1年生～4年生の女性1000人にアンケート調査をした。結果は「恋愛と結婚は別々に分けて考えることができる」と考える女子大学生が大多数であり、これが現在の女子大学生の婚姻観であると分かった。将来今のボーイフレンドと結婚するかという問題に、全然考えていなかったと答えた女子大学生は22.4%、43.6%は確信がない、可能性がまったくないは7%を占める。

「今の自由を捨て結婚するより独りでいるほうが気楽」、「自由な独身生活を享受する」、「ロマンチックな恋人ムードが楽しい、結婚すると相手の嫌な面も見え、愛もいつしか消えてしまう」。

②男性は「忙しいから」、「自由な時間が減る」、「自分の好きなことをする時間やお金が減る」、「これまでの生活を変えたくない」などという理由の人が多く。

③女性は「いい人になかなか出会えないか

ら」、「仕事をする上で障害となる」、「配偶者の親や親戚と付き合いなどなかなか厄介だ」、「家事にしばられる」など束縛されることを嫌う人が多いようである。「結婚＝刑に服する、結婚した女＝バーゲンセール品」と思っている女性も少なくない。

④安定感がない。両親、友達、同僚の結婚が失敗した影響で、後塵を拝するより「独身のほうが安心、手間もお金も省ける」、「家庭暴力の犠牲者になりたくない」、「結婚するのが怖い」というもの。

⑤経済問題。中国では「無房不婚（新婚用住宅がないなら、結婚しない）」という言葉があり、愛情の巣である家屋があることが結婚の最低条件だという厳しい状況のせいで、結婚できない若い者は「不婚族」に分類される。

「不婚族」は愛情、婚姻より楽しいこと、やりたいこと、意義のあることがたくさんあると思っている。婚姻は必ずしなければならないものではない。2010年、中国の世論調査で25歳から35歳の上海に住む独身男性は48万以上、女性は41.5万以上になったとわかった（90年代初期には10万にも満たなかった）。2010年9月アメリカの世論調査（Census Bureau）で、25歳から34歳の未婚数は既婚数を上回り、独身女性は、2005年に初めて既婚女性の数を上回ったことが分かった。イギリスマスコミの調査では、50%の既婚女性は結婚していることをたまたま後悔しているという結果が出た。

## 2.2 懶婚族

「懶」は怠けるという意味である。「懶婚族」は結婚するのが邪魔、おっくうであると考える怠け者たちである。

「懶婚族」とは、同年齢の人の羨望の的となっている、収入が高くて将来があると同時に余裕のある日々を送っている人たちだが、恋人のあるなしにかかわらず結婚にはどうも気乗りがしない人のことである。彼らは今何

のこだわりもない独身の自由を楽しんでおり、恋愛では好き嫌いにそんなにこだわらないが、「不婚族」ほど徹底的な独身主義者ではない。婚姻を排除はしないが、結婚願望が一時的に休眠状態に陥っている人たちである。

「懶婚族」にとって、男も女も適齢期になったら結婚すべきであるという伝統的な結婚価値観は両親の時代の話である。結婚は年齢に関係がない、結婚ならば一生のことだと考える。数を揃えるより粒を揃え、運命を待ち、理想の結婚相手に出会ったら結婚願望が芽生えて、「懶婚族」から脱出して結婚の「族」に入るに違いない。

### 2.3 恐婚族

「恐婚族」。「恐」は怖がる、恐れるという意味である。心理専門家に「結婚恐怖症」と名づけられる。

調査によれば 44.4%の 80 年代生まれの若者が「恐婚族」であると考えられる。どの年齢（世代）にもいると答えた人は 41.1%である。そのほかに「恐婚」が正常だと答えた人は過半数の 51.7%である。

80 年代生まれの若者は今の恋愛、結婚の主力グループであり、死ぬの生きるのと大騒ぎをするが、結婚に至ると敵前逃亡してしまう。結婚する気分にはならない、わけがわからない恐怖感がわいてくる人もいれば、両親の結婚の失敗を見ただけで尻込みする人もいる。

専攻が法学である韓国の三大学交流参加者趙さん（女性）は「結婚に関する様々な犯罪の判例を読んで、結婚というとネガティブなことが思い浮かんで、結婚の幸せ、温かいというイメージより、他人と出会い共に人生を歩むことに怖さを感じた。」と述べた。

その原因について、北京師範大学社会心理学の石林教授は「80 年代生まれの者は、高等教育を受けることで彼らの『人生』を遅らせた。」と述べている。80 年代に生まれた者には一人っ子が多いため、親に溺愛され、心の

成長も遅れてしまった。その上、社会に出るまでの時間が短いので、仕事と生活両面のひどいプレッシャーを受け、心配で落ち着かず、婚姻に対して恐怖心が生じたことは理解できると述べた。「恐婚族」はどうしても結婚の準備を進めることができない。

心の成長の遅れがある一方、新しい家庭を作る物質的、経済的原因もある。

「2010 年中国人婚恋状況調査報告」によると、「恐婚族」の生じた要因は 7 割が「社会」からである。家庭を作るには物質的な基礎が必要、一番大事なのは住宅である。婚恋状況調査の結果、男性が住宅を持っていないなら結婚できないと 7 割の女性が考えている。今の「住宅購入ブーム」で貯金を使い切り、ローンを組まなければならない。結婚費用などの問題が、経済的に困っている就職したばかりの 80 年代を「恐婚族」に追い詰めたと言っても過言ではない。

### 2.4 逃婚族

「逃婚族」は結婚することを避けたがる「族」である。「逃」は逃避して無責任に逃げるということ。結婚したいのに結婚に踏み切れない。

「逃婚族」は「恐婚族」に似ているところがあるが、違いは「逃婚族」が結婚相手を持っているところである。

「逃婚族」は結婚適齢期になっているのに、心の中では結婚なんてまだまだ先のことだと奥手で悩んでいる。結婚相手もいるが、独身であることを通し、ぐずぐずと結婚したくない状態にいる男女である。

一人で過ごす時間こそ最高と考え、結婚にメリットを見出さない「避婚男」。

「結婚＝自由がなくなる」という考えをもち、今の独身の自由自在が続けるか心配、家族、子供に縛られる心配、今の恋愛の楽しさがだめになる心配、相手が浮気する心配などしている。愛情を持ち続ける唯一の方法は結婚時間を遅らせることだと思って、結婚届

を出す前夜に、さらには手続きのその場で結婚キャンセルを決めた「逃婚族」もいる。これは男性よりも女性の方が多い。

「婚姻は愛情の墓」という発想に陥って、もし結婚が愛のお墓にしかねないのなら、恋愛さえしたくない。自分を大事に抱えて生き続けていきたい。一人でも、楽しく幸せな生活をおくることができるというのが「逃婚族」の本音である。

「逃婚族」は心理的なプレッシャー、経済的な問題もあり、奥手で独立性が弱い、一人っ子で他人の世話するのが下手、どのように家庭を作るべきかわからないなどの原因で結婚を先延ばし、逃げる道を選んでいる。

調査によると中国では結婚届を提出する数が減少しつつある。さらに、初婚の年齢が5歳ぐらい遅くなっている。

## 2.5 摆婚族

「摆婚族」の「摆」は動揺、揺れ動くという意味である。「摆婚族」には二つの意味があり一つは愛情と婚姻の選択に迷っていること。もう一つは誰と結婚するか結婚相手の選択に揺らいでいることである。

「懒婚族」と同じように徹底的な独身主義者ではなく、結婚も排除しない。「逃婚族」と同じように結婚相手を持っている。

「摆婚族」はほとんどが25歳から30歳ぐらいで、収入が安定し且つ高い。男女とも精神上、生活上の伴侶を持っており、恋愛あるいは同居の時間が長く、まるで結婚しているかのような生活をしているタイプである。婚姻に対して渴望と絶望が半々、結婚ごっこから抜け出せず躊躇している。

その中には自分の付き合っている伴侶以外にほかの異性も追い求め、あるいは第三者と付き合っている人もいる。結婚の道を誰と一緒に歩くのか？今の伴侶は終生の伴侶かという選択にも揺れている。

反対に「摆婚族」は婚姻の責任を負う、責任

感の強い人とも言える。そうでなければ、軽はずみに結婚、離婚して、煮え切らない「摆婚族」になることはない。愛を叫ぶか、愛を避けるかである。

## 3 結婚相手を探す

結婚の機会から遠ざかっている、結婚したいが、結婚相手がいない。なかなか交際相手もできない独身の男女が増えている。実は急増中である。統計で恋人がいない、誰を愛しているのか？人生の未来の伴侶はどこにいるのか？と少しでもいい条件の相手を探している色々な「…婚族」が生まれた。

### 3.1 婚活族

「婚活」は結婚活動の略語であり、就職活動のように結婚相手を探すということである。日本で生まれた言葉である。

「婚活」ブームをチャンスとして、「婚活」を考え、その活動に身を投げる独身男女を「婚活族」という。

「婚活」という手段で相手を探す若い男女が急増中である。婚姻紹介所、「愛情招聘会（お見合いイベント・愛情募集大会）」など新しい方法を受け入れて、各地で1万人以上のお見合い大会が年中何回も開催された。

恋愛の相談や、社交的な活動に顔をだして、「誰、誰！誰娶我！（誰なの？！いったい誰が私を娶ってくれるの?!）」女性は以前の自然に待っている「受身」から、現在では活発にいろいろな種類の合コンに参加して、積極的に「前向きな努力」をするよう気持ちを切り替えた。

「愛情招聘会」では、自分の略歴と応募側に対する要求（経済能力、家庭環境、仕事の能力、人間性、容貌などの条件）を明示してブースに座る独身男女だけでなく、その中に混じって意外にも独身男女の親たちも、自らお嫁さん、お婿さんを探す「婚活族」に入って

いる。ひとつの「愛情招聘会」に数百、数千人の父母たちの姿が見える。「愛情招聘会」で募集するのは愛情。応募者（応募者）も求めているのは、人生の伴侶である。

応募者の状況を気に入れば、親同士がまず履歴書を交換し、相談して気に入ったら、見合い時間と場所を決め、その後とうとう本人が登場する番となる。親たちも本気で参戦している。

中華全国婦女連合会中国婚姻家庭研究会と婚活サイト「百合網」などが12月に発表した「2010年度中国人結婚恋愛状況調査報告」によると、中国では現在、男女独身者が約1億8000万人で、そのうち約23.8%が両親とともに結婚相手を探している。併せて2億6000万人の中国人が配偶者を選ぶために忙しくしていることが分かった。

「婚活」している「婚活族」の理由には最も多かったのは「結婚したい」、「結婚適齢期になった」、「理想な生涯の伴侶に会いたい」、「今までの普通の生活では交友範囲が狭い」、「結婚で、生活の質をよくしたい」、「親に背中を押されて、しょうがないから」であった。

これに対して、「婚活」をしていない人の理由は「結婚は水到りて渠なる（みずいたりてきよなる）というように時期が来れば自然にするものだ」、「お互いを“結婚のための商品”として見ているような場所では恋心って生まれません」、「忙しくて婚活をする余裕がない」であった。勿論、「自由が欲しい、結婚する気がない」、「一生鑽石王老五（独身貴族）を決心、もう結婚はあきらめている」という若者もいる。

中国で有名人になった、お見合いお兄さんといわれる遼寧省大連市で暮らす31歳の徐さんは、長い間お見合いという手段で理想の結婚相手を探し求めている。しかし今までに268回ものお見合いに臨みながら、うまくいった試しが一度もなかった。もっと凄いののは洛陽で暮らす公務員の男性で、3年間で689

回ものお見合いにトライしたが、失敗に終わっている。今でも奔走中。努力しないと恋愛も結婚もできないのが今の時代である。

### 3.2 猎婚族

「猎」は搜索して、捕まえるという意味である。「猎婚族」の目的は「婚活族」と同じであるが、「猎婚族」は網を張るような「婚活」には顔を出さない。彼らが求めるのは交際相手ではなく、結婚を前提に付き合う配偶者である。

「猎婚」を選択した「猎婚族」はほとんど結婚適齢期を過ぎた未婚でかつ事業も成功した有識者である。仕事が忙しく時間に余裕がないので結婚にふさわしい年齢になってから結婚すべきだと考えている。異性との交際は結婚のためであり、求める結婚相手の年齢、学歴、身長、体重、肌の色、容貌、血型まで厳しく設定し、その条件に従って相手を探す。いったん気に入ればすぐ結婚の件について話し合うタイプである。

「猎婚族」はかつての仲人の代わりに新しく登場した社会的結婚斡旋機関という結婚情報サービス・結婚紹介所に入会した。1982年11月15日、中国の政府機関である結婚紹介所が初めて広州で営業開始。その後、各地域で様々なタイプの結婚紹介所がはじまった。2009年12月1日、中国政府は新しい《婚姻紹介サービス標準》を制定した。会費は月会費コースで500元（約7千円）ぐらいから6000元（約8万円）まで幅がある。また、入会基準として所有資産が200万元（約2600万円）以上、家庭環境、素養、容姿などを厳しくチェックする結婚紹介所もある。

会員は結婚相談所に本人確認書類の身分証明書、戸籍、職業を提出する以外に、プロフィール、写真、自己PR、年齢、趣味、望む配偶者の条件などを渡す。希望する条件に合う配偶者の選択は結婚相談所に任せて、紹介された何人かとお見合いして、さらに納得するまでお見合いする。そのサービス料金は2、3

万元（30、45万円ぐらい）からであり、高いと10万元（150万円）以上である。

### 3.3 課桌征婚族

「課桌」は学生用の教室机の意味である。「征婚」は公に結婚相手を募ると言う意味である。

「課桌征婚族」は教室の机を利用して、結婚相手を募集する人たちのことを指す。

その由来は2010年9月1日新学期の初めの日、江蘇省のある大学教室の机の上に落書きした交際相手を募集する文が見つけられたことにさかのぼる。文の内容は「本人は身長177CM、体重65キロ、人柄も、容貌も優れ、暮らしが裕福、ガールフレンド募集中。募集相手（応募者）は容貌綺麗、気立てが優しい、長い髪の人」など書いてあり、携帯番号とネットの連絡方法が添付されている。その後応募者の返信もあった。最後の結果はわからないが、これに啓発されて、机だけでなく教室の壁も黒板も、キャンパスの隅までもが交際相手募集の場所になった。

本気か冗談か、寂しさを紛らわすためか、ただの目新しい試みかは謎であるが、成功例は多くないだろう。

## 4 結婚するスピード

「婚姻は愛情の墓、結婚しないなら、死後には墓もない。」

結婚という堅い信念を抱いて、結婚相手も見つけ、今すぐにでも早く結婚したいという「婚族」も幾つかある。

### 4.1 畢婚族

中国語で「卒業」を「畢業」というので、大学卒業後、直ちに結婚を目指す学生カップルを「畢婚族」と称する。日本語に訳せば「卒婚族」ということになる。

中国では70、80年代まで在学中の大学生の恋愛は禁止され、学生が校則を犯して恋愛を

すると処分あるいは除名された。しかし、近年、卒業するとすぐに結婚する大学生が多くなった。女性は男性より多い。女子は依然として配偶者に依存する傾向があるようである。

どうして「畢婚」を選んだのか。大卒と同時にさっさと結婚して本当に良かったと思う理由は何だろう？何をするにもパートナーが居る。今まで一人で悩んできたことも今は一緒に考えてくれる人がいる。

賛成者は、

①感情面では、キャンパス恋愛が単純、損得勘定がない、若くて半透明な状態で隠れたことが少ない、互いこうそ偽りのない感情で分かり合える、「畢婚」はほかの結婚より「生命力」が長く続くと信じている。だから「畢婚」を選択した。

②「不婚」のつもりはない。若いうちに結婚できれば、適齢期を過ぎた「結婚難」に分類される苦しさを避けられる。中国では男性は27、28歳なら「結婚の望みあり」、29、30歳は「チャンス少々」、31歳から35歳は「交際しても結婚困難」、35歳を超えると「永遠に一人」、女性は27、28歳から「剩女（結婚できない残る女）」になるとからかわれている。

③厳しい就職難なので大卒後すぐ結婚して、就職難から逃れる。お互いの家族の応援をもらって、安心感、安定感も増し、就職もうまくいくようになる。婚姻は女性の避難港。結婚後企業等への就職をあきらめて、専業主婦になりたがる女子大学生もいる。これに対して、「結婚後も仕事を辞めずに家庭と仕事を両立させて人生を豊かにしたいと思う。（日本女）」という学生もいる。

④仕事と将来の発展のため、結婚と就職を同時に実現して、恋愛、結婚など後顧の憂いがないから、前向きな態度で一心に仕事に精力を傾けることができる。

統計によると、反対の考えを持って、「自分が「畢婚族」になりたくない」と答えた学生は半数にのぼる。

## 4.2 急婚族

「急婚族」は急いで結婚相手を求めている早く結婚したい「族」。その結婚に対する緊迫感「婚活族」より強い。キャンパス恋愛をして卒業後すぐ結婚する「畢婚族」と違うところは、恋愛の経過を省略して一気に婚姻の殿堂に入ることを目指すところだ。頻繁にお見合いやデートをし、ネットで結婚相手の募集文を登録し、「誰が私を娶ってくれるの」と焦っている様子。結婚は果物と違って、いくら遅くても季節はずれになることはないが、どうしてそんなに急がなければならないのだろうか？

「急婚族」の目的は

①大学を卒業する間際あるいは現役の女子大学生である「急婚族」は、婚姻を永久就職と考え、急いで結婚することは迂回就職に等しいと思っている。結婚は厳しい就職難を避けるためのものである。特に経済的に苦しい、親族の経済的な応援も期待できない、教育ローンの返済も大変、就職しても給料は少ない人たちは、早く経済的に苦しい状況から抜け出そうと裕福な結婚相手を求めており、結婚の力に頼って幸せをつかんで、生活や運命を変えたいと考えている。

②大学生ばかりでなく、ホワイトカラー、会社在职者にも「急婚族」がいる。この人たちのほとんどは結婚相手を選ぶ条件が厳しい。事業も成功し、経済的にも独立している女性である。「急婚」の原因は、結婚適齢期がもう過ぎた、周りの同年齢の人や友達も結婚した、年齢が上がるとともに「結婚しにくいゾーン」に入ってしまう、気が焦りじりじりすると考えられる。

## 4.3 閃婚族

「閃」は一瞬きらりと光るという意味である。「閃婚族」は閃光のごとく、付き合ったらすぐ結婚する。スピード結婚といわれる。

「閃婚族」は「急婚族」のようなはっきりした目的を持っていない、一目ぼれタイプである。

スピード化の現代、結婚のスピードも驚くほど速い。3秒で一目ぼれ、8分で恋に狂う、13時間で配偶者になったという冗談もあるが、現実生活には一ヶ月で見知らぬ人から配偶者になったという事実がある。

「閃婚族」は、恋愛期間が長引くと状況も変化して面倒なことが起こりやすいと心配し、本当の愛情かどうか考えずに、早く結婚することが安心だと考える人である。調査によると、ネットで交際関係になった人には「閃婚」する人が多い。

「閃婚族」と同時に「閃離族」も世に出た。結婚も離婚も稲妻のようである。これは日本の「成田離婚」に比べても遜色ない。「閃婚」の結果、失望して離婚するケースも多い。

河南省许昌市にある29歳の男性と23歳の女性が仲人によって5月10日初めて会い、5月17日に結婚したが、夫婦生活3ヶ月で離婚した。

中国杭州では、2008年に70年代生まれの男女が一ヶ月間恋愛をして8月8日婚姻届を提出したが、8月21日には性格が合わないと言って離婚届を提出した。結婚の命は13日間だった。

中国華西都市新聞によると、2009年9月に24歳の王君と22歳の呉さんが友たちのパーティーで一目ぼれし、一週間後の9月9日に結婚届を提出したが、一ヶ月経たないうちに離婚届けを提出し、さよならと言った。

三大学交流会での「誰かに惚れ込んでみると、理性的な判断は難しくなります。恋に落ちると、結婚や自分の将来に対し

て冷静に判断することは簡単にできません。(韓国男)」という意見は「閃婚」, 「閃離」の所在であろう。

#### 4.4 赶婚族

「赶」は追い払う意で, 「赶婚族」も早く結婚するタイプである。「閃婚族」は結婚当事者が早く結婚したいのだが, 「赶婚族」はある程度両親, 親戚に追いつめられ, 急かされて, 結婚せざるを得ないので結婚した人だ。結婚は本人のためではなく, 親のためのようである。その親はほとんどが婚活の「父母相親(父母による見合い)」の主力である。「誰でも良いから結婚しなさい」と考え, 婚姻という大事なことを本人が決められないので, 親がどうしても安心できない状態になっている。

#### 4.5 奧運搶婚族

「奧運」はオリンピックの中国語の略語。「搶」は我先に先を争う, 急いでという意味。「奧運搶婚族」は北京オリンピック開幕の日に「結婚証明書」をもらいたい「族」のこと。結婚なら吉日を選んで日取りを決めるのが一般的である。北京オリンピック開幕の日は2008年8月8日, 旧暦は7月8日。「8」の発音が発財(ファーザイ=金を儲ける)のファーという発音に似ているから, 縁起のいい数字と考える。オリンピック開幕の日は国の大事の日, もちろん結婚の大安吉日。縁起の良い大安吉日に結婚できたら好運で, 幸せな婚姻生活の良い兆しであると信じている。その日の結婚人数は通常の数倍以上であった。

統計では, 北京では2008年8月8日に1万5000組が結婚登録して「結婚証明書」をもらった。これまでの一日の登録者数の記録を破った。そのため, ある結婚・離婚手続きをする民政機関は「2008年8月8日は離婚の手続きをとらない」と掲示して, 集中的に結婚届けの受理のみを行った。

「奧運搶婚族」以外の「搶婚一族」もある。

これはオリンピック以外の珍しい大安吉日に結婚する人たちである。中国人の縁起のいい数字といえば6, 8, 7, 9という数字である。例えば二人の永遠の愛を意味する9(「9」は久, 末永いという意)の連番2009年9月9日に北京で婚姻届を提出した人の数は1万9000組, 新記録である。

2010年5月1日上海万博会開幕の日, 上海市で結婚式を挙げる人の数は3万組を突破した。

2010年10月10日, 三つの10連番の意味するところは非のうちどころがない完全無欠「十全十美」という言葉である。「結婚証明書」の日付に「2010・10・10」が欲しいと朝6時から列を作った準新郎新婦の意向にあわせるように, 10月10日は日曜日であったが, 結婚手続きをする民政機関は休業しなかった。さらに午前0時から結婚届の予約資料をパソコンに登録しはじめ, 夜中の24時まで残業した機関もある。その日, 北京市では新郎新婦1万1230組が結婚手続きをした。北京, 上海以外の都市も同じで, 大人数が申請したため, 応急処置を取らなければならなかった。山東省済南市結婚登録機関は「2008・8・8」, 「2009・9・9」, 「2010・10・10」の3回, 結婚登録応急処置を発動した。

2011年11月11日は結婚登録熱が巻き起こった。「1」は単数で一人を意味する。一人は独身だという発想から, 若者が勝手に11月11日を独身の祭り「光棍节(独身祭り)」と“記念日”にしたのだ。2011年11月11日は「1」が6つであるから, 史上最大の「光棍节」である。各地では万人規模の結婚相手を探す「婚活」イベントが開催された。参加者は早く「脱光族」(「脱光」は衣服を全部ぬいで, 裸になるという意味であるが, ここでは独身(光棍)から早く脱出する意味)になるよう誓い合った。6つの1の連番は「一男一女, 一生一世, 一心一意」というすばらしい意味を与えた。百年に一度の結婚の縁日と考え, 広東省茂名の結婚



登録機関では、その日 1098 組が独身から脱出した。通常の 35 倍になった。その中にはこの日にあわせるため「閃婚族」した新郎新婦もいると思われる。

## 5 結婚、結婚形式

結婚のかたちは時代や社会によって大きく異なっている。日本だけを考えてみても、30 年前の結婚と今の結婚はその傾向も意味も大きく変化している。

「終身大事」の婚姻は、愛情以外に物質の面では新婚夫婦の住宅、電気製品、家具など。生活必要品の購入は家族によって異なるが、収入によって基準が違ふ。派手か地味か、盛大で厳かな結婚式ができるかどうかは家族の人脈、人間関係、財産、地位などによる。一人っ子の多い 80 年代生まれの若者はどのようにするか。夢いっぱいの結婚式は現在どのくらい行われているのだろうか。

### 5.1 裸婚族

今、中国では結婚できない男性が急増し、社会問題化している。彼らの前には中国人女性の結婚相手に求める条件として「高収入」「車」そして「持ち家」という果てしなく高い壁が立ちだかっている。結婚必需品は男性側が購入するというのが古くから定着した風習である。

「裸婚族」は結婚についての物質の準備など何も持っていない「裸一貫」、すっからかんの人たちである。

中国では、結婚の準備と云ったら、70 年代には「三轉一響（転は回転できる自転車、時計とミシン、響は音が響くラジオ）。80 年代には「三大件（三大電気製品テレビ、洗濯機、冷蔵庫）」。今は女性たちが結婚三条件として、相手に「家あり、車あり、そして高収入もあり」と要求してくる。いわゆる「三有（有房、有車、有銭）」である。派手な結婚披露

宴と新婚旅行も結婚の最低条件になった。

「家なし、車なし、金なし」が「三無」、また「結婚式なし、ウエディングドレスなし、新婚旅行なし、結婚指輪なし」で結婚するなら「裸婚」といわれる。

「裸婚」の賛成派は 20 歳から 35 歳が多い。理由は「愛情が第一、住宅、車は結婚後二人と一緒に努力すればよい」、「結婚は感情、愛情から生まれた結果、物は関係ない」、「派手な結婚披露宴は見栄を張るだけで意味がない」。もちろん、現在の経済力（財布の中身）が厳しいためやむなく「裸婚」を選択した人も多い。特に高騰し続けている中国の不動産市場では、住宅の購入は普通家庭であるサラリーマン出身の二人にある程度の貯蓄があっても、親からの援助が見込める人でないと、頭金さえ無理であり、まして購入するのは実現不能なはるかに遠い夢である。

「裸婚」の反対派は、「結婚証明書」は薄い紙きれである、結婚はロマンチックだけである程度物質的な裏付けがなければ生活の保障もなく、婚姻生活を長く続けることはできないと主張する。

### 5.2 半裸婚族

「半裸婚族」は「裸婚族」から派生した「族」である。最近「半裸婚」が流行し始めている。

「三有（有房、有車、有銭）」に対する「半裸婚族」の主張は、住宅は買わずに家を借りる、貯金は結婚してから二人で頑張る、車は余裕があったら考える、しかし結婚披露宴、結婚撮影はしなければならない、海外旅行ではなくて北京、上海といった大都市でもいいから新婚旅行はするという事がある。確かにウエディングドレスを着た幸せな新婦になることは、多くの女性にとって少女時代からのあこがれだろう。

賑やかな結婚式を挙げてこそ、両方の両親、親族、周りの人から祝福や祈りをもらうことができ、友人たちにも感謝の気持ちを伝え、

幸せや喜びを分かち合うことができる。

中国では結婚して夫婦になった後に結婚式を挙げるという風習はなく、だから結婚式は新婚生活の第一歩を踏み出すことを宣言する場所であると「半裸婚族」は考えている。

### 5.3 悄婚族

「悄婚族」。「悄」はこっそりと、ひそかと何をするという意味である。「悄婚族」は「結婚証明書」を受け取るだけの人たちである。両親あるいは親友だけには知らせるが、結婚式を挙げず、親戚や仲のよい友達と一緒にご飯を食べて結婚の知らせをするいわゆる「地味婚」である。

「結婚は自分のためにすることなので、周りの人の意見や賛否などに動揺したら結局自分の幸せが他人に左右されることになってしまう。（中国男）」

中国山東大学社会心理学王忠武教授は「悄婚族」は若い人の生活多様化、生活態度変化の産物であると分析した。

「悄婚族」は結婚披露宴をせず、住宅、車、生活用品の購入も個人の収入によって違う。しかし経済的に困っているとは限らない。「悄婚族」は流行に乗ってない個性の強い者たち。派手な結婚披露宴、結婚式をせず、自分らしい自分流の婚姻式を上げるだけ。ただし、両親や親戚から理解してもらえないことが多い。

### 5.4 熱婚族

「熱婚族」。「熱」は天気の暑いこと。一年間に天気の一番「熱（暑い）」六、七月に結婚するので「熱婚」と言われる。

「6月の花嫁は幸せになれる」という西洋の伝説があるので、西洋文化は前衛的だと考えて一番暑い時に結婚したい若い者もいるに違いないが、もう一つの理由は5月、10月、

旧暦の12月が中国の結婚シーズンなので結婚費用が高く結婚披露宴場の予約も難しいためである。これに対して夏は結婚の夏眠期といわれて費用も割引があるし、場所の予約も簡単にできる。結婚シーズンをずらして、節約できるという理由で「熱婚族」になる若い者もいるに違いない。

### 5.5 拼婚族

「拼」は組み合わせ、つなぎ合わせるという意味がある。「拼」という文字でできた流行語には「拼房（ルームシェア）」、「拼飯（人を誘い、割り勘で食事をする）」、「拼車（車の相乗り）」、「拼購（集団、共同購入）」などがある。「拼婚族」とは、結婚費用を下げるために婚約中の男女の何組が一緒に「拼購」することである。

「拼婚族」の「拼購」の内容は、結婚用品である。集団購買のサービスを利用して家庭電気製品、家具、衣装等々結婚用品から住宅まで購入し、さらに新婚旅行の担当旅行社、旅行先も同じ、結婚披露宴の時間、ホテルも同じである。つまり、結婚について一切のことを団体的に一緒にすることになる。

「拼婚族」になる婚約中の男女はほとんどが同じ時期に結婚をしようとする親友、知り合い、同僚であるが、組数の少ないときにはインターネットで募集することもある。

低予算を望んでいる「拼婚族」は結婚費用を節して資産を上手く運用すると共に、何組か一緒に結婚披露宴を行うのでより賑やかになるため、当事者の体面も損なわない。しかも集団購入する際にお互いに助言し合い、相談相手になることができる。共通の経験をするので、後々いい友達にもなれる。「拼婚」は節約行為の一種類であり、婚姻の実質には不利になるところがないと思う。

中国では政府が手配する50組、100組以上の集団結婚式もあるが、それは結婚式だけである。現在の「拼婚族」は、政府の手配した

規模より小さい。結婚の準備から集団でするので、好き嫌いや経済レベルなどの違いから途中で抜けるカップルもいる。

## 6 既婚者についての「…婚族」

「裸婚」，「半裸婚」，「悄婚」など新しい婚姻観念が登場し，結婚式，結婚披露宴は現代人にそれほど重視されなくなってきた。それにつれて，既婚・未婚も個人情報として秘密事項となった。既婚かどうかは周りの人に分からなくなり，結婚しているのにそのことが隠される可能性が出てきた。

### 6.1 隠婚族

「隠婚族」は「隠れ結婚」している人たちのことである。「隠」は隠れる，ひそむという意味である。「隠婚族」は実は結婚しているが，他人の前では「未婚」の振りをして，「結婚したの？（中国では結婚適齢期になった人はよく尋ねられる質問）」と聞かれたら「未婚」と答えて，職場などで「未婚」として届け出ている。「偽り独身」とも言われる。

「隠婚族」はほとんどがホワイトカラーの女性であり，その中でも25歳から35歳の年齢層に多い。既婚であることを隠す理由は，「自分を守るため」，「自分に有利」ということが多い。確かに「女性未婚者に限る」という制限が付いている求人情報もある。仕事を持っていても，既婚女性が子供を生んだり育てたり，両方の親の世話をしたりするなど私用による休暇を取ることや残業のできない女性は職場に重用されなくなった。人妻になった後、男性からの関心や手助けが減少したり，未婚女性の集まりからはずされるなどある程度孤立感を持っている。また，「結婚していることは私生活の秘密であり，他人には知ら

れたくない」，「結婚していても恋人関係の異性がほしい，今実際にそういう人がいる」という人もいる。

はじめは芸能界の人たちが家族を大衆の目から守るため，異性のファンからの支持と注目を得るために既婚であることを隠していたが，現在は普通の人も何らかの目的で既婚であることを隠すことが多くなった。

「隠婚族」になりたくても，2001年以前はほぼ不可能であった。手続上結婚証明書を作るためには，まず婚姻届と在職証明書と本籍地政府機関の独身証明書を揃えなければならなかった。そのとき個人情報を守る意識が低いと，結婚を公開してしまう状況となる。必要な書類を提出する時や結婚証明書を作る時に，住宅のあたり一帯，職場全体に結婚したことがニュースとなって広まることになった。

しかし新しい「婚姻登録条例」の施行以来，結婚証明書を作るためにはいつも個人で管理している身分証明書と戸籍証明書だけで足り，職場と政府機関の証明が要らなくなった。だから隠れて結婚できる可能性が出てきたのだ。

### 6.2 走婚族

「走婚」は1500年以上の歴史のある，浪漫的情調のある中国少数民族・摩梭人（モソ人）の神秘的な結婚風習のことである。「摩梭人走婚」とは，結婚証明のできる書類がない男女が昼間それぞれの実家で生活して，夜になると男が女のもとを訪れ，明け方には帰っていくという婚姻形態である。

摩梭人以外の新しい「走婚族」は，法律的にも夫婦であり，夫婦仲も良いが分かれて住んだり別居がしていることが多い。「週末夫婦」，「別居婚」とも言われる。仕事の都合や単身赴任とは関係がなく，父母と一緒に生活したい，一人で生活したい，自分自由自在な空間がほしいという理由があるだけである。まるでわがままで大きな子供のようで，結婚

後も同じような独身生活をしている。

「週末婚や月末婚のように常に生活を共にしないスタイルは、女性の社会進出が今後もさらに増えるにつれて、一般的な考え方になると私は考える。(日本女)」

「走婚」という新しい婚姻理念と状態は若者の特権ではない。現在「白髪走婚族」も現れた。住宅を持っている再婚の老人たちは家族の構成、経済条件、生活習慣、古い友達、孫の世話など理由により、「走婚」を選択した。

### 6.3 短婚族

「短婚族」は結婚した後、すぐに離婚をした夫婦のことである。いわゆる「賞味期限が短い」婚姻のこと。「短婚族」には結婚期間一年以内の80年代生まれの既婚者が多い。

「自分が死ぬまで一緒に寄り添ってくれる人と結ばれたい。(日本男)」。結婚した二人がいつまでも仲むつまじく、共に白髪が出るまで添い遂げたいというのは既婚者の願望である。世間体をはばかりる古い世代にとって、離婚は恥辱であり、恥ずかしいのは当事者だけでなく家族全体であるから離婚は絶対に出来ない。

古い世代は、辛抱強く我慢して折り合うべきで、離婚するのは弱いから、我慢が足りないからだと考え。周囲の風当たりも強かったため、親や親族に反対されることも多かった。そのため、離婚したことにより親子関係を断絶した家庭もなかったとは言えない。

経済開放政策とともに精神面も開放し、結婚に対する考え方も変わった。今の世の中では離婚はたいしたことではない。不倫も以前より増えた。若年層の離婚率は飛び抜けて上昇している。

離婚原因は夫婦の性格の不一致、婚外恋(相手の浮気、不倫)、家庭暴力、育児、家事の分担、経済問題、家族の介護のもめごと、

トラブルなど家族の問題であるが、「短婚族」の離婚理由は「一人の時間が欲しい」、「相手は悪い人ではないが自分に合わない」、「自分につらい思いをさせたくない」、「周りの姉妹の離婚が引き金」などであり、とても不思議である。

しかも、誰がゴミを出すか?食後の片付け、食器の洗いものが誰の番か?トイレから長時間出ない、相手のイビキで眠られない、特別の理由はないがとにかく別れたかったなど不可解な、ウソとしか思えないようなケースもある。

「婚姻はお互いに尊重することです。相手の性格の尊重だけでなく、習慣や趣味の尊重そして相手の両親と友だちへの尊重も重要でしょう。(中国女)」

「短婚族」には交際期間が比較的短い「閃婚族」の占める割合が多い。スピード結婚、スピード離婚である。民政部の統計などによると、離婚総数は増加傾向である。2009年は前年を19万9000組上回る246万8000組が離婚した。

銀川晩新聞によれば、銀川市にある若者が初めてデートした3ヶ月後の2010年8月に結婚したが、その1ヶ月後に離婚した。さらにその後2ヶ月経たないうちに再婚したが、また2ヶ月後2011年初めに再び離婚届けを出した。

筆者の出身地である山東省済南市結婚登録機関では、結婚後半年にならないうちに離婚した若い張さんは、ご主人が歯磨きを絞り出すときいつもチューブの前端から出すことが気に入らず、またチューブにふたもしないという生活習慣の違いを理由に別れた。

山東省青島市では、3月21日、若い男女二人が午前中に結婚登録機関から結婚証明書をもって喜んでいたが、当日の午後には離婚の判を押した離婚証明書に変わった。原因は、双方の親戚がめでたく結婚の昼食会をした時、両家の父親の席順をめぐる不快な雰囲気になり、口論となったが新郎新婦がお互いに

譲らなかったためである。一日の間に、朝は未婚、昼は既婚、午後はバツイチ。身分転換のスピードには目を見張る。

中国では、2004年まで離婚の調停申立があり、離婚の裁判手続きは複雑であった。仲裁、調停など時間が何ヶ月、半年、もっと長い期間かかった例も多い。離婚はできるだけ回避すべきだというのが一般的な考えであったが、現在では破綻した婚姻を継続させる方が非人道的との考え方が強くなった。離婚調停をしないで夫婦とも異議がないなら、離婚手続きは10分で終わる。このため、離婚意思がないのに、かっとして離婚届を提出してしまい、離婚した後で後悔している夫婦もいるかもしれない。

「何を言っても離婚は結局みんなが傷つきます。(中国女)」

#### 6.4 蜗婚族

「蜗婚族」は離婚した夫婦が離婚前の同じ屋根に住んで一緒に生活していることである。いろいろな「…婚族」の中で一番気がふさぐのは「蜗婚族」と言える。経済面では富裕な階層とは言えない。統計によれば離婚した夫婦の中で「蜗婚族」は一割に満たない。

離婚して夫婦の縁がなくなった二人は別々の道を行くのがごく当たり前だが、同じ屋根に棲む理由はそのほとんどが経済的な問題のためで、具体的には結婚ときに購入した住宅のせいである。夫婦の共有名義で購入する財産の中で一番金目のものは住宅である。共有財産の家屋を売ってその売り金を清算、分与して、新しい場所で新生活を始めたらいいのに、中国の住宅値段が現在暴騰しつつあるため、いま売ったら損だと価値が上がるのを待っているのだ。売却して処分せずにいると一人で住宅ローンを返すのも難しいし、住居を新たに賃貸して住むとなると家賃代が高いし、そもそも貯蓄の少ない二人にとって新しい住宅を購入するのは不可能である。住宅に縛ら

れ、住宅の奴隷になっている。

離婚後同じ屋根の下に住む二人が別々の部屋に住み、「井戸水は河水を犯さず」という諺のように互いに何のもめ事なく生活している。しかし、ばつが悪いのは新たな恋人が訪ねてくること、つまり同棲の始まりである。相手に与える精神上的苦痛の程度を想像できるだろう。法律違反ではないが、伝統的倫理にもとる行為であると思う。

#### 7 おわりに

流行語はその時代の特徴をよく表している。「…婚族」には中国の現在の若者の婚姻観が見て取れる。良いか悪いか、正しいか正しくないか十人十色であるが、結婚は魂と魂、心と心から成り立つ神聖なものだと思う。

流行語の最大の特徴はその流行性にある。生命力の強い「語」は定着して一般的な語彙になり、生命力の弱い「語」は一時のものとしてその時代の移り変わりに伴って死語になり消えていく。現在の「…婚族」という流行語はどのくらい長く生き続けるだろうか？若者の婚姻観にはどんな変化が生じるだろうか？注目すると共に引き続き調査、研究をしていきたいと考えている。

(留学生センター 教授)

#### 【参考文献】

- 介末 2011 『裸婚』 北方婦女児童出版社  
ツノダ姉妹 2011 『喜婚男と避婚男』  
(新潮新書)  
小倉 千加子 2003 『結婚の条件』  
(朝日文庫)  
万建中 2004 『婚俗』 (中国旅游出版社)  
龍生庭 2008 『婚俗趣話』(光明日报出版社)  
叶涛 2000 『抢婚』 (中央民族大学出版)  
广州市妇女联合会研究室、市妇女学会 2010

《广州女大学生价值观调查红皮书》

<http://baike.baidu.com/view/1346465.htm>

<http://baike.baidu.com/view/2130397.htm>

<http://baike.baidu.com/view/874860.htm>

<http://baike.baidu.com/view/3219226.htm>

<http://baike.baidu.com/view/3474111.htm>

<http://baike.baidu.com/view/3417861.htm>

注

1) 日中韓三大学交流：山口大学（日本）、山東大学（中国）、公州大学（韓国）三大学毎年一回「三大学学生交流会」を行う。2010年山口大学主催、交流会のディベートテーマは「私の結婚観」である。

2) （日本女）三大学交流会に参加する学生の国籍と性別。

例え（日本女）三大学交流会に参加する日本人女性。（日本女）国の名前と参加する学生の性別。

（中国男、女），（韓国男、女）